

『評価からはじめるまちづくり！2010』（第1グループ）

施策名	暮らしを支える制度の充実と自立支援		
対象	市民	成果指標	自立世帯数(保護廃止のうち死亡・他福祉事務所への移管・失踪等を除く)
意図	経済的に自立できる		
参加者	野里知央, 宮腰領太, 岡本美緒, 高木大輔(11日のみ)		

グループワークⅠ

理由など	市民の評価
<p>生活保護</p> <ul style="list-style-type: none"> 受給者(世帯)の自立努力が不足している② 困窮する市民に対し必要な保護をしている④ 高齢者の自立傾向がみられる(一人暮らしの高齢者など)③ 生活保護というだけで制度上様々な優遇が受けられる④ 生保受給世帯よりも収入の少ない世帯がたくさんいる① 生保受給者で自立できない仕事をしている 行政サービスが真に必要な人が受けられていない懸念がある② 民間のアパートが増えており公営のアパートは減らすべき③ 情報発信が不足している② (制度や事務事業の)内容がわかりづらい <p>医療</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診断をした後の措置が十分ではない③ 医療費の助成が限られた範囲になっている② 数値改善後も(医師の助言により)通院をやめられない③ 自身の健康管理(食事への関心など)に注意を払わない人が多い② 働けるのに自立の道を選ばない人がいる② <p>社会の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 失業率が減らない① 県内(市内)の有効求人倍率が低い② 日本人は労働条件に対しげいたくである① 外国の労働力が安い① ワーキングプアが増加している① フリーターが増加している② ゆとり教育の弊害が出ている② 若者の就労状況(就職率)が悪化している② <p>若者の風潮</p> <ul style="list-style-type: none"> 「定職に就く意欲がある」と答えた人の割合 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 就業率 経済的理由による自己破産の世帯数(件数, 人数) 経済的理由による自殺者数 ホームレスの人数 	<p>2</p> <p>市の評価</p> <p>5</p>

グループワークⅡ

効果	成果指標及び課題
	<p>定義: 「自立」とは、生活保護を受けなくても生活できる</p> <p>生活保護受給者</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年度において自立した世帯の受給から自立までの期間の平均 自立した世帯の率(%) <ul style="list-style-type: none"> ①理由別 ②構成別 生活保護を受けている理由を分類し困窮の程度を調べる 失業してから自立するまでの期間 「この先自立できるように働き始めたい」と答えた人の割合 新卒者の内定率 <p>若者</p> <p>受給していない人</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生活保護を受けるのは恥だ」と思う人の割合 働いていても生活が苦しいと思う人の割合 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 就業率 経済的理由による自己破産の世帯数(件数, 人数) 経済的理由による自殺者数 ホームレスの人数